

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-1 健康づくりの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課長 知念 希和 電話番号 0852-22-5248

事務事業の名称	難病等医療費助成事業（指定難病、小慢）
目的	(1) 対象 難病患者（指定難病等は年齢制限なし、小慢は18歳未満の児童を対象） (2) 意図 患者の医療費負担の軽減及び治療方法の確立
事業概要	従来の予算事業から、難病法及び改正児童福祉法に基づいた医療費助成制度となっている。（平成27年1月より） ・指定難病及び小児慢性特定疾病の医療費については、当該疾病に関する医療保険の給付を除いた額から患者の自己負担額を除いた額を、特定疾患治療研究事業及び先天性血液凝固因子障害等治療研究事業については、当該疾病に関する医療保険の給付を除いた額を公費負担する。ただし、治療の対象となる医療は、通院、入院を問わず、また重症患者であるか否かに関わらず、認定に係る対象疾病及び当該疾病に付随して発現する傷病に対する医療に限られる。 ・スモンに対するはり、きゅう及びマッサージ治療研究事業及び在宅人工呼吸器使用特定疾患患者訪問看護治療研究事業については、施術又は訪問看護を実施した機関にその費用を公費負担する。

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	受給者証の交付件数（指定難病＋小児慢性特定疾病）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	特定医療費（指定難病＋特定疾患＋小児慢性特定疾病）の受給者証交付件数	目標値		5,900	5,900	
			実績値	5,863	6,171	6,384	6,499		
			達成率		104.60	108.20	110.20		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
			目標値	0.00	0.00				
			実績値	0.00	0.00				
			達成率		0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,096,194	2,079,892
うち一般財源(千円)	586,343	1,052,042

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○指定難病（特定医療費）受給者数：5,836人 ○特定疾患治療研究事業受給者数：28人 ○在宅人工呼吸器使用特定疾患患者訪問看護治療研究事業対象者数：7人 ○スモンに対するはり、きゅう及びマッサージ治療研究事業対象者数：5人 ○先天性血液凝固因子障害等治療研究事業対象者数：30人 ○小児慢性特定疾病医療受給者数：635人	（平成27年3月31日現在）
--	----------------

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年1月から難病法及び改正児童福祉法に基づく医療費助成制度となり、助成対象疾病も拡大されたため、受給者数が増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 - ・中等度以上の難病患者へ医療費助成という新しい制度について、患者や関係者の理解が不十分である。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 - 新しい制度についての情報が、患者をはじめとした関係者に正しく届いていない。
- ③原因を解消するための「課題」
 - 新たな助成制度について関係者の理解をすすめる。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

患者家族会で制度説明をする。
関係者向け研修会で制度説明をするなど、あらゆる機会を通じて周知を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）